

[2025年1月30日開催]

<サロン事務局>

第4回革新的製品創出サロン（開催後記）

「2024年度第4回サロンを2025年1月230日に開催。「付加価値創出力強化」の統一テーマのもと、講演2件（製造現場DX、愛知県人口動態分析）及び公的支援施策の情報提供1件を実施し、最後に同会場にて講師等を囲むワンコイン交流会を開催し、予定通りに閉会した。

★講演1. 「製造業におけるデジタルツイン導入の課題と研究事例

～効率的なシステム構築の実現に向けたプロトタイピング手法～

講師：名古屋工業大学大学院 情報工学専攻、NITech AI 研究センター 准教授 大塚 孝信氏



- ・デジタルツインとは2002年にミシガン大学教授が作った概念。製品や設備などの「モノ」（リアル）をデジタル（仮想空間）の世界に再現し、性能、不具合や故障などを忠実にシミュレートできる「デジタルの双児」（DIGITAL TWIN）を意味する。
- ・DTを適用すると、製品外観検査、製造ライン分析、注文書や経営資料作成に至るまで、膨大なデータを短時間で効率的に処理することが原理的には可能となる。
- ・しかし全ての工程を無差別に可視化（デジタル化）すると莫大な

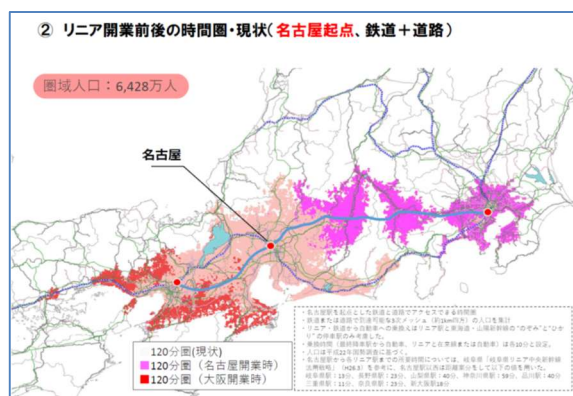
予算が必要となることは容易に予想されるため、DTシステムはソフト及びハードでコストの優れたシステムを構築する必要がある。本講演はその代表事例として、①設備の予防保全、製造工程内の物流解析、医療機器管理のシステムを取り上げ、具体的に大塚先生の自社製ソフトウェア、オープンソースハードウェアを駆使して、管理が楽になると同時に新しい価値（情報）を創造できるシステムを安価に製作した例を紹介された。

- ・更にものづくりメーカーに対し、**デジタル化できたことだけで満足せず、ビジネスが創造できるまで攻めることが最重要であるとのアドバイス**があった。その場合、大塚先生とのご相談が必須と思われた。

★講演2. 「身近リニア時代の東海創生 —製造業サイドへのエールを念頭に—」

講師：岐阜大学客員教授 名古屋都市センター特任アドバイザー 加藤 義人氏

- ・ものづくりで日本トップを続ける愛知県でさえ、人口の自然減少が大きく社会増が僅かで、日本人の人口が減少している県になってしまった。
- ・年代別の統計では20代を中心に東京に吸い出されているのが顕著。名古屋も衰退前夜のイメージ。
- ・ミッションドリブンの若者の首都圏流出を防ぐにはものづくり産業の付加価値創出力の強化が必要。
- ・そのための方策は、**リニア開通を契機に名古屋からの交通2時間圏（圏域人口6400万人強）を確立し、**



交流機会場の場、業務拠点の立地、居住地選択の競争力＝魅力度を高め、若者たちを惹きつける都市と産業を目指すべきであるとの結論であった。

★情報提供「中小企業(支援)施策について」

発表：中部経済産業局 地域経済部 中小企業課 浅井 俊行氏

- ・中小企業の現状を踏まえ、支援施策（取引適正化、生産性向上、成長支援）の説明を受けた。

★ワンコイン交流会(ネットワーキング)

- ・最後に講演会場のコーナーでワンコインのネットワーキング交流会を開催し、会員企業様各社のトピックスを90秒間以内でショートプレゼン頂いた。

(以上)